

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大学名	金沢大学
整理番号	B05
構想名	徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) B	事業目的はある程度達成されているが、今後の発展のためには努力が必要と判断される。
(コメント) <p>本構想は事業期間全体において、専門知識と課題探究能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成のため、教育改革の全てのよりどころとなる「金沢大学グローバル人材スタンダード」を設定し、教育目標を実現するために育成する人材の具体的な姿を明示することで、それらの課題解決に向け全学体制で取り組むことができたと言える。「東アジアの知の拠点」として日本のグローバル化をけん引するモデル大学（「金沢大学ブランド」）としての確立を目指し実施された事業である。</p> <p>事業展開では、10年間をかけ、大学ガバナンスの改革と学長のリーダーシップが発揮され、多数の特色ある取組に従事された。大学の特性を踏まえたブランディング戦略も体系的によく練られたものとなっている。特に、国際共同研究や若手研究者の国際活動支援については、今後も持続可能な取組として確立されていることが読み取れる。外国人卒業生層でアカデミア等諸分野におけるリーダー格の人材とのネットワークを活用した取組等は、今後国内他大学において大いに参考になる。これらを通して、大学の国際化・グローバル化の「金沢モデル」が確立されたことは評価に値する。</p> <p>一方で、構想に対しての自己分析及び改善がやや不十分であり、本事業の成果指標の達成度も独自目標を含め達成度が低いものが多数ある点等が懸念される。よって、その先に貴学のあるべき姿として定めた「東アジアの知の拠点」として、日本のグローバル化をけん引するという野心的な構想には、まだ道半ばであるだろう。いずれの目標等に対しても何が達成され、何が課題であるか、さらにはこの先どのような展望があるか等、本事業終了後においても多く存在する未達の国際化課題を洗い出したうえで、明確な分析評価と、それに対峙する戦略を現実的・具体的に創出し遂行する点において、今後の動向を期待する。また、本事業において貴学の特色ともなっている、地域の大学等教育機関への横展開については具体的な事例が乏しく、より踏み込んだ取組を今後推進していただきたい。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>	